

春の夜の夢ばかりなる

手枕にかひなく立たむ

名こそ惜しけれ

中一ニ三

春の夜のはかない夢のように、（僅かばかりの時間でも）あなたの腕を
枕にしたりして、それでつまらない噂が立つことにでもなれば、それが
まことに残念なのです。

（百人一首 六七番 周防内侍）